

2026年5月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

| | | | |
|---------|----------|-------------------|----------|
| 大 阪 店 | +10.3 | 柏 店 | ※2 +7.7 |
| 京 都 店 | ※1 +21.0 | E C 店 | +18.0 |
| 泉 北 店 | +10.2 | (株)高島屋各店計 | +11.0 |
| 日 本 橋 店 | +12.3 | (株)高島屋各店 既存店計 | ※3 +12.4 |
| 横 浜 店 | +11.2 | 岡 山 高 島 屋 | +5.8 |
| 新 宿 店 | +11.0 | 高 崎 高 島 屋 | +5.3 |
| 玉 川 店 | +11.3 | 国 内 百 貨 店 計 | +10.8 |
| 大 宮 店 | +8.9 | 国 内 百 貨 店 既 存 店 計 | ※3 +12.1 |

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。

※2 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「塚店」の前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+10.8%(※+12.1%)、免税売上高+20.1%、免税を除いた店頭売上高+9.5%(※+11.0%)となりました。

○国内顧客は、気温の上昇にともない、夏物衣料・雑貨に動きがみられたことや、食料品催事が堅調に推移したことで、前年実績を上回りました。

インバウンド顧客については、ラグジュアリーブランドを中心とする高額品が伸長し、全体を押し上げました。

○店舗別売上高は、大坂店、京都店、泉北店、日本橋店、横浜店、新宿店、玉川店、大宮店、柏店、EC店、岡山店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高(当社分類・既存店対比)は、紳士服、紳士雑貨、婦人服、婦人雑貨、特選衣料雑貨、宝飾品、呉服、子供情報ホビー、スポーツ、リビング、食料品、食堂、サービスが前年実績を上回りました。